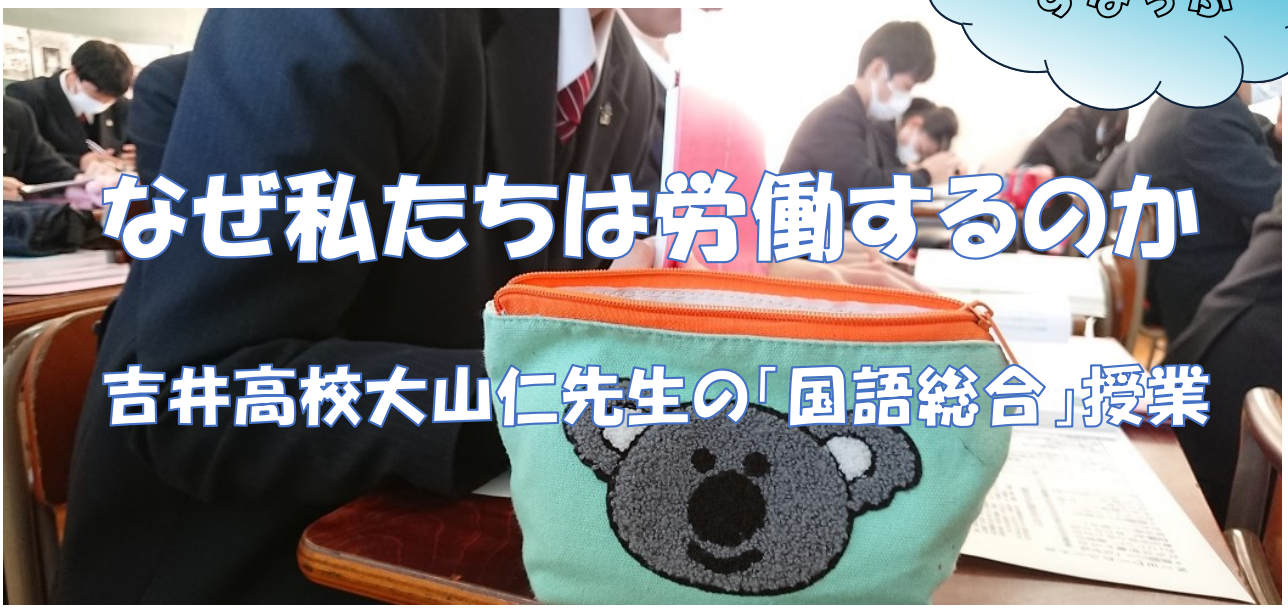
さりげないスナップ写真のすてきな笑顔のように
群馬の教育や文化の話題を普段着のまま紹介するシリーズ

すなっぷ



なぜ私たちは労働するのか

吉井高校大山仁先生の「国語総合」授業

「なぜ私たちは労働するのか」のテーマに取り組んだ高校生

２０２０年１月２０日（月）、大寒というのに春のような暖かい日の午後、高崎市街から山名の里山沿いののどかな道を行くと、吉井高校の校舎が見えてきました。

今日は、大山仁先生の「国語総合」の授業を参観させてもらいます。今日から２年生はシンガポールへの修学旅行に出かけたということで、昼休みにしては静かな校内でした。

５時間目、１年３組の教室に入ると、穏やかで人なつこい生徒たちが笑顔で迎えてくれました。伸び盛りの高校生３９名が揃うと、教室はいっぱいで狭く感じます。

本日の授業は「国語総合」の教科書にある「なぜ私たちは労働するのか」（内田樹）の６回目。高校生がこの評論をどのように読み解き考えるのか、興味深いテーマです。

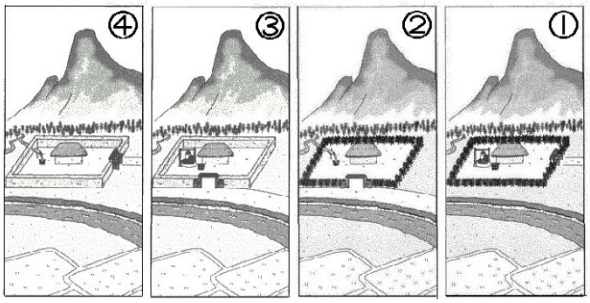
「導入」は、センター入試問題

すぐテーマに入るのかと思いきや、そこはベテラン。一枚のプリントを配って生徒に問いかけました。

「これは何の問題なんだかわかるかな？」・・・生徒はピンと来ない様子。しばらく待って先生が説明してくれました。「これはこの土曜日・日曜日にあったセンター入試の問題なんだけど、こういうイラストが大学入試の国語の問題に出たのは初めてなので、ちょっと話題を呼んだんですよ」と紹介。１年生の生徒には、まして今年で最後になるセンター入試は話題にならなかったようです。

でも先生の説明に促されて、問題に取り組み始めました。六朝時代の詩人謝霊運の五言詩の一部から作者の住居の設備と周辺の景物の配置の絵を選ぶという問題です。生徒は、まわりと相談しながらあてはまる絵を選んでいきました。（下図参照）

センター入試と言えども恐るるに足らず。こういう問題は興味がわいてとっつき易い。「国語の試験２００点満点で、第４問漢文の問題の満点は５０点。その中でこれができれば８点取れるわけだよ」と先生。



「南に門があり谷川の水を堰き止めて井戸の代わりに…」を読み解けばわかる。

これまでの授業の経過と本時

さて、本題の内田樹氏「なぜ私たちは労働するのか」を読んでみましたが、なかなか難しい文章です。普通のというか通俗的な見解と違って、氏独特の見解が述べられています。そこで、大山先生は、丁寧に時間をかけて取り組んでいきました。まず、最初の１時間目は、生徒に「なぜ仕事をするのか」自由に書いてもらい、意見を交流しました。

次に２時間目から５時間目は、段落を区切り丁寧に読解していきました。

そして今日は６時間目、まとめと応用問題です。

まとめは次の**課題①＝**

「なぜ私たちは労働するのか」について、筆者の考えをまとめた文の空欄を、本文中の語句を用いて埋めてください。

参考に紹介します。

（受験勉強）と（アルバイト）の経験によって若者たちの多くは、（個人）の努力が（個人）に還元される仕事を「やりがいのある仕事」と考える労働観を持つ。

しかし、年長世代にとってやりがいのある仕事とは、（どこかで誰かの役に立っている）仕事のことを意味する。

労働の本質は、（個人）の努力が（集団）の利益にかたちを変えることにあり、個人の（努力）が多くの他者に（利益）として分配されることを求めるような（特異なメンタリティ）が必要である。私たちが労働するのは（生き延びる）ためである。

みなさん、いかがですか？

大山先生は、生徒の間を回っていきながら、時々声をかけ、さらに「そうか、そういう言い方もできるなあ」と生徒の答えを拾っていきました。

次の答え合わせの時、これが生きるのですねえ。「若者たちの多くは、（個人）の利益が（個人）に還元される仕事を・・・というところを（自分）と書いている人がいたけど、それもいいねえ」と、答えは一つとは限らない、生徒の多様な表現や答えを引き出していきました。さすがです！

応用問題　「私の考える、労働する理由」に取り組む

さて、最後の大仕事、課題②です。

課題②＝

投書四つのうち一つを選び、それに関連させてあなたの考える「労働する理由」について、自分の意見を記述してください。

プリントには「NIE ワークシート」と記されていました。大山先生が長年取り組んで来られた NIE の課題です。NIE とは「Newspaper in Education」、学校などで新聞を教材として活用し、興味や関心の幅を広げる活動です。

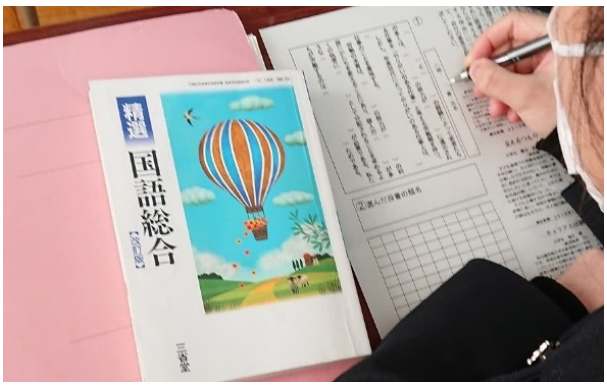
今回の授業の課題には、１８歳から２１歳の若者４名の投書が紹介されています。

①「辞めるのには理由があります」
アルバイトでのクレーム対応と店長の態度から　（大学生、１９歳）

②「支えるつもりが実は支えられた」
子ども食堂の活動から（大学生、１９歳）

③「キャリアとは積み重ねた経験だ」
青年海外協力隊希望とキャリアデザインの授業から　（大学生、２１歳）

④「世の中お金だと思ってるんです」
これまでの経験から、お金と幸せ度
（高校生、１８歳）



生徒は、投書を読み、自分の意見を書き始めました。原稿用紙２００字です。さすが、書き慣れているのでしょうか、時間内に全ての生徒が書き終えて提出しました。

次の時間に、お互いの意見を読みあって交流します。楽しみです。

私の考える「労働する理由」……　生徒の意見より

①「辞めるのには理由があります」に関連させて

＊何で辞めるのか、考えて改善して

自分もＴＶや新聞で「最近の若者はすぐ辞める」という言葉をよく聞きますが、単純に自分に合わなかった・向いていなかった・つまらなかったという理由では決してないと思います。逆に、最近の若者がすぐに辞めてしまうのは、筆者が経験したような出来事があったからなのではないでしょうか。「若者はすぐに辞める」と言っている方は、何で若者がすぐに辞めてしまうのかもっと真剣に考え改善していってほしいものだ。

＊労働は夢や希望を叶えるため

私は、夏休みなどにアルバイトをしていましたが、実際に理不尽なことを言われたことはありません。しかし、教科書に載っている評論で大人たちが若者を批判するような言葉を言っていることは納得できません。大人たちは昔自分が若かった頃労働が大変だったからといって若者に経験させたいのではないでしょうか。私は、労働は夢や希望を叶えるためだと思います。夢のために頑張っている若者を批判するのは理不尽だと思います。

＊今の時代、パワハラだと感じる

私はこの文章を読んだ時に「そうだよな」と思いました。私はこのような経験はまだしていないが、彼女の対応は間違ってはいないと思います。何事も一人で行動は大切だと思うが、教えてもらってない事は動けるはずがないと思います。また、今の時代、店長の行為はパワハラだと感じる方がいると思います。仮に私がこのような体験をすると辞めると思います。何故なら「面倒くさいから辞める」のではなく「理由があって辞める」からです。

＊一人一人と向き合わない大人にも責任

私は、よくテレビで最近の若者は何かあるとすぐに仕事を辞めてしまう、自分に甘いと言われているのをよく耳にします。若者にもいけない所はたくさんあると思うけれど、みんながみんな若者は全員そうだと思って、一人一人と向き合わない大人にも責任はあると思います。若者もしっかりと意見を伝えて、大人も若者の話に耳を傾けていけば、少しずつお互いの気持ちが分かって、仕事を辞める若者が減るのではないかと思いました。

②「支えるつもりが実は支えられた」に関連させて

＊支える・支えられる関係を築いていきたい

この筆者の意見にはとても共感できる部分がある。それは「支えられているのは私の方だった」という言葉だ。日常生活の中で友達が落ち込んでいたら、相談に乗ったり励ましたりなど支えたくなる気持ちになる。しかし、そのように思えるのは自分が普段その人に支えられているからだと思う。自分は自分の知らない場所で色んな人に支えられていると感じた。支える・支えられるの関係を多くの人と築いていきたい。

＊労働は好きなこと・楽しいことを見つける仕事

私が思う労働する理由は、好きなこと・楽しいことを見つけるためだと思う。今、就職やアルバイトをしている人は、新しい好きなことや新しい楽しさを見つけようとしているんだと思う。今つらい思いをしている人も、もっとお金を稼いで楽しいことをしようと思っていたり、今仕事は楽しいと言っている人は今まで働きながら楽しさを見つけたからだと思う。だから、労働は好きなこと・楽しいことを見つけるためにするのだと思う。

＊労働のイメージ変わった

この投書を読んで、労働のイメージが少し変わった気がします。なぜなら、労働という言葉に自分はいいイメージをあまり持っていなかったからです。しかし、この投書を読んで、働くことの意味、やりがいを改めて感じることができ、また支え合って生きていくことの大切さも学ぶことができました。普段あたりまえのように生活しているけれど、家族や友達など自分の周りでたくさん支えてくれる人がいるから、毎日楽しく過ごせるんだなとあらためて思いました。

③「キャリアとは積み重ねた経験だ」に関連させて

＊自分も将来につなげたい

入学して少したつとすぐに卒業後の進路を説明され、就職か進学かの二択で自分も戸惑いました。まだ一年もたっていないのに、どんどん選択をせまられ、将来の目標が本当に自分が目指したい道なのかも分からなくなり、目標がうすれてしまいました。しかし授業を受けて、限定的にとらえていた事に気づいた事もあり、来年度で自分の考えもなにか変わるのかもしれないと思いました。キャリアは積み重ねた経験であることを理解し、将来につなげたいと思いました。

④「世の中お金だと思ってるんです」に関連させて

＊お金を稼ぐためと人を喜ばせるための労働

私は、「世の中お金だと思う」という意見に賛成です。なぜならお金があれば何でもできます。労働する理由もお金を稼ぐためであると思います。しかし、お金が目的で仕事をしていると、仕事をするのが楽しくなくなってしまうので、お金目的の人はすぐに仕事をやめてしまうと思います。私は労働する理由は、お金を稼ぐためと人を喜ばせるためだと思います。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

「主体的・対話的で深い学び」めざして

いかがでしょうか。「労働」体験に乏しい生徒にとって、内田樹氏の文章を読んだだけでは、やはり自分の身近な問題として考えにくいと思われます。若者の新聞投書は「手がかり」として考える材料になったのではないでしょうか。

そして次の授業で、お互いに友達の意見を読みあうことによって、ことさら「話し合い」をしなくても静かな「対話」が生まれることでしょう。こうした積み重ねの先に「主体的・対話的で深い学び」が育っていくのだろうと思いました。　　《文責：瀧口典子》

今、学校で起こっていること　群馬県立吉井高校国語科　大山仁

[「探究」って？]

吉井高校三学期の始業日の１月７日午後「これからの探究学習を考える会」という職員研修会が約一時間の時程で開かれました。講師はベネッセ関東支社・情報担当のＹ氏で、「学校全体で探究をより深めていくためには」というテーマに則り、ステップ①「『探究』とは何か？」ステップ②「なぜ『探究』なのか？」について、手際の良い説明がありました。次期学習指導要領で軸となる「探究」とは、「生徒自身による問題解決的な学習活動が発展的に繰り返されていく学び」であり、対話による課題の発見などで答えを「導き出」し新たな問いを見出す「探究活動」の意義深さが諄々と説かれました。この「探究」は学習指導要領で称揚されるだけでなく、「Society5.0」（注 1）で求められる資質・能力の一つとしても強調されています。

[『探究』が称揚されるワケ]

ここまでの説明で、私は一般的熟語「探究」にあまりに過剰な意味を付与しようとすることの不自然さを覚えました。学習指導要領にあるとはいえ、「探究」という一語がこれからの課題を解決する特効薬にならないことは、誰にも予想がつきます。かつて流行った(！？)「アクティヴ・ラーニング」もほぼ同様でしたが、横文字に無意識のコンプレックスを抱きやすい日本人にとって「アクティヴ～」が備えていた「面妖さ」は、「探究」には微塵も感じられません。答えを導き出す循環のスタート地点に「探究」があるというイメージそのものは悪くないと思います。これまでもこのようにして学問は発展し、これからも同様でしょうから。でも、ことさら「探究」をアピールするのはなぜなのか腑に落ちません。

答えは、研修会の最後にありました。ステップ③「どう『探究』を実践するか？」として、「ルーブリック」(注 2) を使った実践例の中に、ベネッセが誇るクラウドサービス「Classi（クラッシー)」(注 3) と高大接続ポータルサイト「ジャパンｅポートフォリオ」(注 4) の活用例がさりげなく紹介されているのです。つまり、前半の説明で煽られた教員の不安をしっかりと受け止める形で、巧みな営業トークによるベネッセ商材の宣伝が学校現場に流し込まれるというしくみです。

何とも言えない虚しさを感じたのは私だけではなかったはずです。また、誰もそんな営業トークに乗るはずはないと思うかもしれません。しかし、全国の４割ほどの学校でこの「Classi」がすでに導入され、「ジャパン～」にいたっては文科省の委託事業として現在強烈に推進されています。（ベネッセＩＤ使用で現在問題化！）

[『予測が困難な時代』が醸し出す不安]

教員の多くは、生徒が未来に生き生きと歩を進めることを願い、持てる全ての力を注ぎます。しかし、次期学習指導要領が示す未来は「社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、予測が困難な時代」であり、未来に何が必要かを予測することは生徒ばかりか教員にも困難です。学習指導要領解説を読めば読むほど教員の不安が増すのは、それを企図して「改革」が策定されていることと、それを受け止める教員の側に依拠すべきものがない(少ない)ことによります。経験値の少ない若い教員は当然のことですが、今までのやり方が全否定され新しいシステムに習熟することを求められるベテラン教員にも、先行き不透明なこれからが不安です。そんな中ベネッセ商材はとても魅力的に映るはずです。「何ができるようになるか」が求められる学習現場で、体裁良くパッケージ化された学

習システムや情報サービスは、日々の多忙な校務によって主体的に考えることもままならない教員にとっては「救いの神」であるはずです。

［『教育改革』がもたらすもの］

今般の「教育改革」がもたらす余波の一つに「思考の定型化」があると私は考えます。「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」について目に見える成果が求められれば、多くの生徒と教員は受験産業の提供する学習システムや教材にすがることになり、皮肉にも次期学習指導要領とは逆行して、じっくり思考することを厭い、多様な解を認めない不寛容な空気が生まれていきます。アクティヴ・ラーニング＝グループ学習との誤解が広まった背景には、ワケの分からぬ新機軸には、万人受けして見てくれの良い絶対解で安心したいと考える心情がありました。それと同様に、「主体的・対話的で深い学び」を実現する方策として、みんながやっているスタイリッシュなパターンの踏襲が巾を効かせることになります。このようにして、多くの生徒と教員が画一的なやり方に終始する「思考の定型化」に陥れば、次期学習指導要領が予言（！）する「予測が困難な時代」に対応できないことは明らかです。しかし、それも織り込み済みで、この事態を超克するほんの一握りの「人材」がいればそれでよし、というのが施策者側の意図だとすれば、なんとも恐ろしいことだと思います。

（注 1）Society5.0 は、日本が提唱する未来社会のコンセプト。AI や IoT、ロボット、ビッグデータ、などの技術革新をあらゆる産業や社会に取り入れることにより実現する新たな未来社会の姿。狩猟社会（Society1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、人類社会発展の歴史における 5 番目の新しい社会の姿とも言える。（「経団連」等の資料より）

（注 2）「ルーブリック」(Rubric) とは、学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表として示したものである。主に、パフォーマンス課題を評価するために使われる。 パフォーマンス課題を評価する 1 つ以上の観点、その特徴を例示する記述である評価基準、評定段階を表す区分である尺度、パフォーマンス課題を定義する課題からなる。（Wikipedia より）

（注 3）Classi はベネッセとソフトバンクの合弁子会社で、情報通信技術を活用した教育事業を手掛ける企業。学校教育における ICT 活用の推進を目的として設立された。 学校で使うタブレット端末に宿題や小テストなどを配信する SaaS 型のクラウドサービスである。 利用料は生徒一人月額 300 円。（Classi サイトより）

（注 4）文科省大学入学者選抜改革推進委託事業で構築・運営する、高校 e ポートフォリオと大学出願ポータルサイト。高校生自身がアクセスし、校内外の活動や実績など「学びのデータ」を記録し、教師が確認できる。項目は、探究活動▽生徒会・委員会▽学校行事▽部活動▽学校以外の活動▽留学・海外経験▽表彰・顕彰▽資格・検定の８種類。蓄積データは大学出願時、ネット出願システムで利用できる。（朝日新聞掲載「キーワード」による）

取材を終えて

取材の前に、大山先生から「各自の考える『なぜ働くの？』を文章化する時間のため、当方はほとんどしゃべらず、書かず、見ているだけになりますので、皆さんに見ていただく価値はないようなものですが」というメールをいただきましたが、なるほど先生はほとんどの時間を机間巡視に費やし、生徒たちが考える姿を見守っていました。しかし、生徒たちが熱心に回答用紙に向かって鉛筆を走らせている姿には驚き、感心してしまいました。おそらく、ここまでの授業の中でのやり取りを通じて大山先生の目標とするところが十分に生徒に伝わっていたのでしょう。声を交わす形でないコミュニケーションを感じて豊かな時間を共有させていただきました。大山先生はじめ、対応してくださった教頭先生、生徒の皆さんに感謝いたします。

《取材・撮影：瀧口典子・坂田尚之・倉林順一》